

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

Description of the Project (プロジェクトの概説)

これまで本校は、平和学習の手段の一つとして約5年前から、NPOひろしま点灯虫の会が、おこなっているピースキャンドルの作成に参加している。ピースキャンドル作りについては、NPOひろしま点灯虫の会から講師を招聘し、本校と八本松分級合同の全校行事として取組んでおり、児童生徒の発達段階に応じた事前学習、事後学習を行い平和の大切さを学習している。

7月に本校体育館で行う校内ピースキャンドル作りでは、最後に事前学習で学んだことを基にピースキャンドルの側面にメッセージを書いたり、絵を描いたりする。完成したピースキャンドルは、作成当日、本校と八本松分級の児童生徒が集合した中で体育館の照明を消し、ステージに飾り点灯している。その後、平和について考えたこと感じたことを発表したり、合唱したりして平和学習を深める。

さらに8月6日の広島原爆記念日に原爆ドームの周りに他の参加校のピースキャンドルとともに並べ、夜に点灯する。

事後学習では、7月の校内ピースキャンドル作り、平和の思いを発表した様子や、合唱、8月6日の夜、原爆ドームの周りに他の参加校のピースキャンドルとともに並べ、点灯されている風景をビデオ視聴することで「平和への願い」を新たに作る。

Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本県が人類史上最初の被爆県であることを踏まえ、本校の平和教育を国内外に発信することで、卒業後も世界平和に関心を持ち、インサイドアウトの活動として平和を願い続けることのできる人材を育成する。

これまでの平和教育の取り組みは、学年や学級単位での成果、課題はあると思うが、学部としてのねらい、目標を定める必要がある。そして小学部から高等部まで発達段階に応じた学校全体をとおした系統的な指針が必要である。したがって仮称「平和教育全体計画」を作成し、教職員の共通認識のもとでより教育効果のあがる平和教育を持続可能な教育として行っていく。

また、平成24年、2012年8月に海外姉妹校提携を行ったスウェーデンのタルバックカ特別支援学校と平和教育を交流内容の中の一つとして取組んでいることも継続する。グローバルな視野で他国や、他校の活発な動きも情報収集し、参考にしながら、平和教育を深めるため現在おこなっているピースキャンドル作り以外の手段も模索する。

Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity

各学部学年で事前学習や事後学習を年間指導計画の5月、6月、7月、8月、12月に教科(国語、図工、音楽)や生活単元学習や、総合的な学習の時間に盛り込んで学習している。

○事前学習5月、6月

各学部共通、八本松分級は分級の中でピースキャンドル作りを行う。

7月の平和学習は、児童生徒会が司会進行するため会長を中心に八本松分級と連携し、どのような平和学習にするか執行部で検討する。当日の準備を行う。校外学習として、平和公園や原爆ドームを見学する。校内放送で、校内で決めた平和の歌「ハナミズキ」を流す。昨年のピースキャンドル作りをビデオで視聴し、合同学習の流れを把握する。

小学部 ・日々の活動の中で、人を大切にすることや思いやりについて学習する。

- ・ 絵本や歌を教材に平和について学習する。
- ・ 一人一人が考えた平和のメッセージを毛筆で大きく書く。
- ・ 八本松分級は分級の中でピースキャンドル作りを行う。

中学部 ・原爆投下によって広島がどのような被害を受けたかについて調べる。

- ・ 平和について調べる。
- ・ ヒロシマと平和について調べる。
- ・ ビデオを見ながら、平和について考える。
- ・ 平和に向けたメッセージを考える。
- ・ ピースキャンドル作りの講師へのプレゼント作り。
- ・ 絵本や歌を教材に平和について学習を行い、立体作品「アオギリ」の制作。

高等部 ・絵本や歌を教材に平和について学習する。

- ・ 平和の願いをこめた校内の壁面へ展示する絵の共同作品作り。
- ・ 「ピースキャンドル壁新聞」の作成。
- ・ 平和に向けたメッセージを考える。
- ・ 平和とは何か、一人一人の立場で考える。
- ・ 世界の平和について現状を知っていく学習を進める。
- ・ 原爆ドームの貼り絵をしながら、平和への思いを新たにします。
- ・ 平和公園に校外学習に行き、貰ってきた被爆2世のアオギリについて考える。
- ・ 平和の象徴「はと」について考える。

○当日7月 ピースキャンドル作りを行い本校と八本松分級の合同平和学習

- ・ 午前中 本校のみピースキャンドル作り、午後 八本松分級が到着して点火
- ・ 平和の歌
- ・ 校長の話
- ・ 平和の言葉

※八本松分級は、事前に分級でピースキャンドル作って当日持参する

○事後学習8月、9月、12月

- ・ 8月6日の夜、原爆ドームの周りに他の参加校のピースキャンドルとともに並べ、点灯されている昨年の様子をビデオ視聴することを通して、これまでの活動を確認し「平和への願い」を新たにします。また、この学習をDVDに保存し、スウェーデ

ンのタルバッカ特別支援学校へ送り，平和の大切さを伝え，相手校から同じようにピースキャンドルを作り，平和を考える集いを行った等のメールが届いたことを基に，学習を深める。

平和の願いをこめた作品作りとして，事前学習で作成した折り鶴作りや貼り絵，原爆ドーム，アオギリなどの創作活動の成果の中から，立体作品「アオギリ」を8月の広島県立特別支援学校美術・工芸展に立体作品出品する。

さらに9月(2学期始業式)，11月の文化祭，12月の校外展「こころのいずみ作品展」や学校の廊下へ平和学習で作成した作品を展示して発表する，

- 小学部
- ・平和について感じたことを発表する。
 - ・自分たちの周りの平和とは何か考える。
- 中学部
- ・平和について調べたことをまとめ，発表する。
 - ・ヒロシマと平和について調べたことを発表する。
 - ・平和への思いを発表する。
 - ・世界の平和と人類の幸福について国際的な視野を持って日本語と英語で発表する。
- 高等部
- ・ヒロシマから発信している平和とは何か気づいていく。
 - ・平和とは何か，まわりの生活の中で考える。
 - ・平和な社会と自分たちの暮らしについて学習する。

Type of materials to be used (使用する教材)

ほとんどの児童生徒は，事前学習からピースキャンドルの作成過程，さらには分級と合同の平和学習，事後学習まで肢体不自由に適した支援具や感覚機能に訴える教材・教具等を活用して学習を進めている。また，言葉だけでなく，表情や身振り，発声などの身体的なコミュニケーション手段や，絵・シンボル・視線などによる選択が可能なコミュニケーションボード，VOCAやパソコンやタブレット端末などのコミュニケーション支援機器も利用している。

小学部

- ・ビデオ「しんちゃんの三輪車」原爆で亡くなった子どもの遺品から原爆の爪痕を知る。
- ・絵本「平和ってどんなこと」平和 に対する考え方を，今の子どもたちの視点で掘り下げる。
- ・絵本「かわいそうなぞう」平和が損なわれたことによる罪のない動物への影響
- ・絵本「おりづるの旅 さだこの祈りを乗せて」世界中へ平和の大切さを届けたいさだこの思い
- ・絵本「ねこは生きている」東京大空襲の中を野良猫の親子が生き延びる姿
- ・絵本「アオギリのねがい」「ヒロシマのピカ」，歌「ハナミズキ」戦争の悲惨さ，失われた家族の絆。
- ・過去3年間の広島市の小学6年生の言葉「平和への誓い」を読むことで，自分たちが平和が大切だということを発信し続けなければ途絶えてしまう「平和」の危うさ。
- ・漫画「はだしのゲン」戦争・原爆の悲惨さ。
- ・絵本「ピカドン」原爆の破壊力。
- ・記録写真「原爆投下」原爆被害。

中学部

・絵本「アオギリのねがい」「ヒロシマのピカ」、歌「ハナミズキ」等で戦争の悲惨さ、失われた家族の絆。

高等部

・「戦争で使われた地雷について」調べ学習の発表 外国には、今なお死傷者が出る実態があり、普通の生活ができず恐怖に慄いている。

・DVD「つるにのって」核兵器廃絶の願いをアニメーションで世界の子どもたちに伝える。

・「おこりじぞう」かけがえのない命について考える。

・絵本「はとよ ひろしまの空を」少年が鳩に託したメッセージから愛するものを失う悲しみそして命の尊さ重さを考える。

・絵本「アオギリのねがい」戦争の悲惨さ、失われた家族の絆。

・ピースキャンドル作り(分級の中で)

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

1. 評価の観点

小学部 ・安心して生活できる社会とはどんな社会なのか考えられたか。

・平和とはどんな状態か知ることが出来たか。

中学部 ・平和について調べることができたか。

・ヒロシマについて調べることができたか。

・平和について考えることができたか。

・世界の平和と人類の幸福について国際的な視野を持たたか。

・被爆した「アオギリ」の苗が育っていることを確認できたか。

高等部 ・自分の生活と平和が結びついているか。

・国際的な視野で、平和について気づき考えることができたか。

2. 評価の方法・材料

小学部

○全校行事や学部集会で、雰囲気を感じ取り、表情を緩ませ笑顔を見せることが多くなった。

○みんなと一緒に話を聞いて拍手をしたり、クレパスをしっかりとってピースキャンドルに絵を描いたりした。

○他学級の友だちと共通の話題で関わり、友だちのいいところを認め合ったりすることができるようになった。

○「平和の歌」を決めるのに学年委員会に出席し、意見を言うことができた。

○交流会で、特別支援学級の友だちとピースキャンドルづくりをした時、回りの様子や友だちの声に耳を傾け、覚醒状態が持続していた。

○過去3年間の広島市の小学6年生の言葉「平和への誓い」を読んだり、広島市の平和祈念館のホームページで平和に関する資料を探したりして平和への思いや願いについて考え、作文に表してみることができた。

中学部

○平和の歌「ハナミズキ」や「アオギリの歌」を聴いたり、「アオギリ」の話を聞いたりして、お母さんアオギリの気持ちについて考え、感想を發表することができた。

○ピースキャンドルを作ることによって平和への思いを深めた。

○平和公園から貰って帰った被爆した「アオギリ」の苗を実際に見に行き、被爆した「アオギリ」が本校でたくましく育っていること知ることができた。

○絵本「アオギリのねがい」の読み聞かせにより、立体作品「アオギリ」の子ども作りで緑色のやわらかい紙を丸めたり、ビニールや毛糸の感触の違う素材を味わいながら「アオギリ」の葉っぱを作ることができた。モニュメント作りでは、「アオギリ」のお母さんの木をローラーや刷毛等道具を選びながらペイントした。サランラップの芯やビニール袋など身近な廃品素材の中から自分の作りたいイメージに合った素材を選び、色合いを考えながら貼り合わせを工夫して完成させた。

高等部

○平和について地雷に関する図書を読み、「安心して学校に行きたい」という感想をもった。生徒会副会長として他の生徒の平和に対する思いも一緒にまとめて平和アピールとして発表した。

○平和のメッセージとなる共同制作、壁画の図案を企画し、希望をイメージする「虹」をスパンコールで創作したり、たくさんの折鶴を貼り付けて完成させた。

○平和学習は、自分から参加する平和貢献のひとつとして自覚できた。

○戦争で使われた地雷に関する資料を図書等で探し、今なお死傷者が出る実態があり普通の生活ができないでいることを知る。

○ピースキャンドル作りは昨年までの手順を覚えていて、ほぼ一人で完成させた。講師へのお礼の言葉も生徒代表として發表することができた。

○平和の歌として感じるができる歌として「ハナミズキ」を選んだ。

3. 評価の時期

本校は、3学期制であるため、小学部1学年から高等部3学年まで、各学期末の個別の指導計画の評価提出の時期（年間3回）に行っている。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

Date (_____)

Principal's name _____

(_____)

Position, (_____)

Institution's name (_____)